広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第36号　2008．3〉

自校史教育が高校生の進路選択に及ぼす影響に関する研究（2）

—進路指導の改善と大学に関する情報提供の充実—

小宮山道夫　小池　聖一　西原　利典　宮本　浩治

1．はじめに

本研究は，広島大学附属高等学校（以下，「附属高」と略記）の生徒に対し，広島大学および附属高の歴史についての授業を受講させることにより，大学や大学進学の意味について考えさせる機会を提供し，生徒たち自身の存在意義の理解や将来像の確立にどのように影響するかを検証しようとするものである。

本研究の動機および研究方法については前稿（「自校史教育が高校生の進路選択に及ぼす影響に関する研究（1）—進路指導の改善と大学に関する情報提供の充実—」『広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第36号，2007年3月）を参照願いたい。本稿は次のような構成をとる。第2節においては前回実施内容からの変更事項を中心に本研究の対象および内容について記述する。第3節においては事前調査に関する分析を，第4節においては事後調査に関する分析をそれぞれ記述する。第5節においては主に第2講義に関する分析を講義担当者である西原が行い記述する。第6節を本稿の小括とし，末尾には今回の調査票について，前回の調査票からの変更部分のみを摘記して資料とした。

2．研究の対象および内容

平成19年度の附属高第1学年の生徒200名に対し，広島大学のみならず日本の大学教育制度に対する理解を深めさせるための第1講義「日本の大学の歴史」，そして生徒自身が現在所属している附属の成り立ちからこれまでの取り組みについて理解を深めさせる第2講義「広島大学附属高等学校の歴史」を提供した。これらの授業の前後にアンケート調査を実施し，生徒たちの意識の変化をみた。

前回と異なる点は，（1）広島大学の歴史を中心とする「広島大学とは何か」を，「広島大学附属高等学校の歴史」に変更したこと。（2）（1）にともない調査票に附属への進学理由等，附属に関する質問項目を追加したこと，の2点である。

それでは追加した質問項目から今回の受講者集団についてみてみよう。今回アンケート用紙を回収できたのは197名であった。

設問1は受講者が附属中学校出身かどうかを答えさせるもので，全体の56.0%が附属中学校の出身であることがわかる。

表1　設問1　附属中学出身

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A　Yes	20 (11)	22 (11)	22 (12)	21 (11)	22 (11)	107 (56)
B　No	17 (6)	17 (6)	18 (6)	16 (6)	16 (7)	84 (31)

（　）内の数字は女子で内数

設問1で附属中学校出身と答えた107名に対し，附属中学への進学理由を尋ねたのが設問2である。ここでは複数回答とし，最大3つまでの回答を認めた（回答数累計240）。進学理由としては，「A．中高一貫だから」「B．男女共学だから」「G．校風」の順に高く，回答の累計240のうちそれぞれ29.5%，17.9%，17.5%をしめた。

回答のなかった「O．その他」および「L．同窓会が充実しているから」を除き回答の少ない順では，「E．歴史・伝統があるから」，「I．親，親戚の出身校だから」，「F．大学進学率が高いから」，「J．他に行くところがなかったから」と続いた。意外なことに「G．校風」が上位に挙がっていながら，その前提ともいえる「E．歴史・伝統があるから」についてはほとんど理由に挙がっていない。おそらく「校風」と「歴史・伝統」との間の不可分な関係を理解できていないのであろう。また生徒たちの受け取っている「校風」の内容が一般にいわれる「校風」とは異なっている可能性もある。その辺りについては「校風」の内容を詳しく記述させていないので明らかにできない。

KOMIYAMA Michio, KOIKE Seiichi, NISHIHARA Toshinori, MIYAMOTO Kouji: A Servey and Study of the influence on the high school student's course selection by the History of University. (2)

表2　設問2　附属中への進学理由

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A　中高一貫	11 (5)	16 (9)	15 (9)	11 (5)	18 (10)	71 (38)
B　男女共学	5 (3)	7 (6)	12 (9)	10 (6)	9 (4)	43 (28)
C　兄弟	1 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	6 (3)
D　親の勧め	6 (4)	3 (3)	1 (0)	8 (3)	3 (0)	21 (10)
E　歴史・伝統	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (1)
F　大学進学率	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	4 (4)
G　校風	4 (2)	10 (6)	12 (6)	7 (5)	9 (5)	42 (24)
H　先生の勧め	2 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (1)	10 (1)
I　親がOB	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (2)
J　他にない	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	4 (2)
K　通学の便	5 (2)	7 (2)	2 (0)	2 (2)	1 (1)	17 (7)
L　同窓会	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
M　授業の質	1 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	6 (1)
N　世間の評判	1 (1)	3 (2)	2 (0)	1 (1)	4 (2)	11 (6)
O　その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

附属高への進学理由について尋ねたのが設問3である。設問2と同様に3つまでの複数回答を認めた（回答数累計405）。進学理由としては「A．中高一貫だから」「G．校風」「B．男女共学だから」の順に高く，それぞれ20.7%，18.5%，10.2%となった。回答のなかった「O．その他」および「L．同窓会が充実しているから」を除き回答の少ない順では，「I．親，親戚の出身校だから」，「C．兄姉が通っている（いた）から」「M．授業の質が高い」となった。

設問2と比べ，上位3つは順位の入れ替えこそあったものの変化はなかった。その一方で「F．大学進学率が高いから」，「E．歴史・伝統があるから」，「J．他に行くところがなかったから」の回答率が増加した。

表3　設問3　附属高への進学理由

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A　中高一貫	15 (7)	19 (9)	19 (11)	14 (7)	17 (10)	84 (44)
B　男女共学	9 (4)	9 (6)	13 (9)	10 (4)	5 (4)	46 (27)
C　兄弟	1 (1)	1 (0)	2 (1)	3 (2)	1 (1)	8 (5)
D　親の勧め	2 (0)	5 (3)	3 (1)	5 (2)	8 (3)	23 (9)
E　歴史・伝統	9 (4)	3 (1)	2 (2)	3 (2)	9 (4)	26 (13)
F　大学進学率	8 (2)	5 (3)	10 (7)	7 (6)	3 (1)	33 (19)
G　校風	12 (5)	19 (10)	15 (10)	13 (6)	16 (8)	75 (39)
H　先生の勧め	7 (0)	2 (1)	7 (0)	4 (3)	3 (3)	23 (7)
I　親がOB	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (2)
J　他にない	6 (3)	5 (4)	2 (0)	4 (1)	7 (1)	24 (9)
K　通学の便	4 (1)	8 (2)	3 (0)	7 (3)	2 (0)	24 (6)
L　同窓会	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
M　授業の質	4 (1)	7 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	15 (5)
N　世間の評判	4 (3)	5 (2)	4 (1)	3 (0)	5 (4)	21 (10)
O　その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

3．事前調査結果

前述のような生徒集団に対し，昨年同様の項目を設定した事前アンケートを実施した。以下設問に沿って結果を見ていく。

設問4では進学する大学について具体的に考えているかどうかを尋ねた。全体で44.4%，男子で35.0%，女子で55.8%が現時点で具体的に進学先を考えていることがわかり，男女差が明確に表れた。

表4　設問4　進学大学

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A考えている	17 (9)	18 (8)	16 (10)	16 (11)	17 (10)	84 (48)
B考えていない	18 (7)	21 (9)	24 (8)	21 (6)	21 (8)	105 (38)

行きたい大学の所在地域を尋ねたのが設問5である。全体では「F．中国地区（岡山県／広島県／鳥取県／島根県／山口県）」，「B．関東地区（東京都／神奈川県／埼玉県／千葉県／茨城県／栃木県／群馬県）」，「E．近畿地区（大阪府／兵庫県／京都府／滋賀県／奈良県／和歌山県）」の順で，それぞれ31.3%，30.7%，25.2%の割合であった。

第5節において西原も指摘するように，前回調査と同様に関東地区と近畿地区の大都市圏および近隣の中国地域に人気が集中していることがわかる。3地域の

表5　設問5　所在地

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A北海道・東北	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	5 (1)
B関東	10 (6)	10 (6)	6 (4)	12 (9)	12 (8)	50 (33)
C甲信越・北陸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
D東海	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
E近畿	10 (8)	8 (5)	11 (6)	7 (5)	5 (1)	41 (25)
F中国	10 (7)	12 (7)	12 (9)	8 (6)	9 (3)	51 (32)
G四国	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (2)
H九州・沖縄	1 (1)	1 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (2)	10 (6)

総数は全体の87.1%を占めていた。

進学したい大学について具体的に尋ねたのが設問6である。ここでは第3志望まで聞いた。回答を男女別で列記すると以下のとおりとなる。

表6　設問6　志望校

男子

東京大学／北海道大学獣医／東北大学工学部／東京大学理学部／東京大学農学部／東京大学文Ⅰ／広島大学工学部／岡山大学医学部／京都大学理学部／京都大学工学部／名古屋大学工学部／法政大学航空学部／京都大学法学部／広島大学医学部／大阪大学理学部／広島大学工学部／東海大学航空学部／東京大学理Ⅱ／大阪大学理学部／東京大学理Ⅰ／九州大学理学部（21回答）

女子

早稲田大学／筑波大学教育学部／広島大学医学部／神戸大学／広島大学薬学部／一橋大学／広島大学教育学部／岡山大学医学部／大阪大学教育学部／九州大学医学部／京都市立芸術大学／広島大学薬学部／一橋大学社会学部／東京芸術大学／愛媛大学医学部／京都教育大学／筑波大学／大阪大学法学部／広島大学薬学部／上智大学法学部／自治医大医学部／東京大学理学部／広島大学医学部／広島大学／広島大学薬学部／九州大学医学部／広島大学医学部／東京大学工学部／大阪大学理学部／山口大学医学部／京都大学／防衛医大／大阪大学医学部（33回答）

全体での志望者数順の志望校は，広島大学（12名・22.2%），東京大学（8名・14.8%），大阪大学（6名・11.1%），京都大学（4名・7.4%），九州大学（3名・5.5%），岡山大学，筑波大学，一橋大学（各2名・3.7%），愛媛大学，京都市立芸術大学，京都教育大学，神戸大学，自治医大，上智大学，東海大学，東京芸術大学，東北大学，名古屋大学，防衛医大，法政大学，北海道大学，山口大学，早稲田大学（各1名・1.8%）となっている。

男子についてみると，東京大学（6名・28.5%），京都大学，広島大学（各3名・14.2%），大阪大学（2名・9.5%），九州大学，岡山大学，東海大学，東北大学，名古屋大学，法政大学，北海道大学（以上各1名・4.7%）であった。このうち東海大学と法政大学はともに航空学部の志望であった。

女子についてみると，広島大学（9名・27.2%），大阪大学（4名・12.1%），東京大学，九州大学，筑波大学，一橋大学（各2名・6.0%），京都大学，岡山大学，愛媛大学，京都市立芸術大学，京都教育大学，神戸大学，自治医大，上智大学，東京芸術大学，防衛医大，山口大学，早稲田大学（各1名・3.0%）の順となった。

以上の志望校選択に影響力を与えているものについて尋ねたのが設問8である。「B．母親の意見」，「A．父親の意見」，「F．教師の意見」の順で回答が多く，男女ともにその順位に変動はなかった。また，母親と父親を合わせると全体の52.5%にのぼった。

表7　設問8　影響力

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A　父親	13 (6)	8 (2)	8 (6)	7 (5)	5 (3)	41 (22)
B　母親	15 (8)	7 (4)	10 (7)	12 (9)	8 (4)	52 (32)
C　兄姉	2 (2)	3 (1)	2 (0)	4 (1)	3 (3)	14 (7)
D　祖父母	3 (2)	1 (1)	4 (2)	1 (1)	1 (0)	10 (6)
E　親類	2 (0)	3 (1)	4 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (5)
F　教師	8 (5)	5 (2)	7 (5)	7 (4)	4 (3)	31 (19)
G　友人	6 (4)	0 (0)	3 (1)	4 (2)	5 (4)	18 (11)
H　その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

設問9においては設問4でまだ進学先を考えていないという生徒に対して，その理由を尋ねた。

表8　設問9　まだ考えていない理由

やりたい仕事が見つからない／自分の実力に不安／具体的な夢がない／文系，理系どっちつかず／なりたい職業がない／一生に関わる事だから慎重に選びたい／大学についてよく知らない／進路が決まっていない／今をエンジョイしたい／何がしたいかまだわからない／どんな職業があるかわからない／高1だから将来を具体的に決めていない

表9　設問11　大学に期待すること

学びたいことを教えてくれる／社会で役に立つ／学習環境／知識と技術／授業の質／世界に通用／青春／専門的な授業／深い授業／校風／就職の有利さ／エンジョイキャンパスライフ／充実した設備の中で医学が学べる／就職率／楽しい生活／近さ／安さ／授業の質／楽しめる／進路保障／実績／誇れる学校／地域医療について／楽しさ／就職／自由な時間／すごい人々／充実感／設備／社会に貢献できる人材育成／良い教授／一人暮らし／ブランド／将来の職業／生き甲斐／高度な知識／新たな友だち／研究／肩書き

表10　設問12　大学のイメージ

自由／同じような目的を持った人たちがお互い競い合い磨き合う／就職の最終段階／免許／個性的な先生／楽しい／自分の授業を自分で選ぶ／いろんなイベントや行事を運営する／知的／研究／楽しい／自由／専門教育／責任は全部自分／楽しそう／自由／授業が少ない／レポート大変そう／自分の意志がはっきりして努力した人には充実した生活／サークル／自分から学びにいく場所を与えてくれるところ／自由／開放／暇／一人暮らし／楽しい／勉強が難しい／サークル／自主自律／自由／楽しい／他県の人と知り合える／自分が興味を持ったことを深く学ぶ場／かべ／レポート地獄／人生で一番自由な時間がある

授業内容への興味については45.7%の生徒が「C．どちらでもない」を選択し，31.5%が興味を示し，22.8%が興味を示さなかった。

表11　設問13　授業内容への興味

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとてもある	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	6 (3)
B少しある	9 (5)	17 (7)	12 (9)	9 (4)	9 (6)	56 (31)
Cどちらとも	22 (9)	14 (9)	22 (8)	16 (9)	16 (7)	90 (42)
Dあまりない	1 (0)	3 (0)	5 (2)	6 (4)	7 (1)	22 (7)
E全くない	4 (2)	7 (1)	3 (1)	5 (0)	4 (3)	23 (7)

表12　設問14　興味ある理由

大学についていろいろ知ることができる／自分の進路決定のためにいろんな話を聞きたい／大学に行く意義に興味がある／大学に行かないといけない／高校や大学の歴史に興味がある／附属の歴史を覚えたら将来誰かに話せる／大学がどのような感じか興味がある／大学に向けて参考になりそう／大学受験について知らないといけない／大学のことをあまり知らない

表13　設問15　興味ない理由

他人の意見は聞かない主義／独りよがりっぽい／正直どーでもいい／どーでもいい

表14　設問16　授業に期待すること

自分自身の変化／大学をイメージしやすく／普通には聞けない話／新しい発見／わかりやすい内容／大学のことが少しでもわかればいい／ねむくならない／要点をきちんとまとめて

表15　設問17　広島大学への進学

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aしたい	4 (4)	3 (1)	4 (0)	3 (3)	2 (1)	16 (9)
Bできればしたい	8 (3)	10 (8)	16 (10)	9 (4)	11 (7)	54 (32)
Cどちらとも	16 (6)	16 (5)	17 (8)	17 (8)	16 (5)	82 (32)
Dできればしたくない	6 (3)	5 (2)	3 (0)	4 (1)	6 (4)	24 (10)
Eまったくしたくない	2 (0)	3 (0)	2 (2)	4 (1)	2 (2)	13 (5)

表16　設問18　進学したい理由

比較的近い／世間の評価が高い／附属出身だから／歴史と伝統がある／質の高い授業／教育実習／国立／地元／親戚も多くが出身／オープンキャンパスに行って設備が充実していた／近い／レベルが高い／父親の勤務先／設備が充実／県内／国立／親の薦め／自由に研究ができると思う／広島から出たくない／将来就きたい職場と直結／親類のすすめ／地元で一番の大学／自宅通学が可能／国立で近い／金銭面で負担小／総合大学で色んな人と友だちになれる／授業の質が高い

表17　設問19　躊躇理由

まだ大学についてあまり決めていない／もっと上を目指したい／父が勤務／関東に行きたい／田舎だから／他に行きたい大学がある／中途半端に遠い／広島から出たい／他の大学にも興味あり／広大より上のレベルに行けるなら行く／自分が広大にあっているかわからない／できれば県外に行きたい

表18　設問20　進学したくない理由

行きたい学部がない／広島から出たい／広島を出たい／興味ある学科がない／県外に出たい／広大では自分のしたいことができそうにない／一人暮らしがしたい／関東や関西の大学にも興味がある／レベルもそう高くないし，大学自体に魅力を感じない

4．事後調査結果

続いて事後調査の結果について，設問に沿ってみていくこととする。

（1）第1講義「日本の大学の歴史」に関する回答

第1講義は日本の大学および広島大学の歴史に関する内容であり，受講生にとって直接は関係のないものといえる。そのためか，表20にみる設問2「授業内容には興味を覚えましたか」では，65.6%が「C．どちらでもない」の中立的意見を選択し，興味を覚えたが16.7%，興味を覚えなかったが17.7%という構成となった。事前調査において表11にみたように，45.7%の生徒が中立的意見を選択し，31.5%が興味を示し，22.8%が興味を示さなかった結果と比べると，肯定的意見と否定的意見をともに減じ，肯定的意見をより多く失っていることから，生徒の興味関心に訴える内容が十分に盛り込まれていなかったことを示しているだろう。

その一方で，表19の設問1「授業内容は受講前の期待通りでしたか」に対しては，「C．どちらでもない」が44.1%，期待どおりが44.1%，期待はずれが11.7%と，肯定的な意見が多かった。そのことは表22の設問8「この授業を受けて良かったと思いますか」に対し，中立意見が57.4%，肯定意見が33.0%，否定意見が9.6%であったことにもみられている。これらのことから高校生にとって直接関係のない講義内容とはいえ，おおむね高校生の知的好奇心を満たすものであったと考えられる。

講義内容の難易度については，表21にみるように，受講者の72.8%が「C．適度だった」と回答しており，理解しやすい内容を提供できたと言えよう。

この講義をほかの附属高生徒に勧めたいかとする設問11については，表23にみるとおり，67.9%が中立的，18.4%が肯定的，13.7%が否定的となった。また，同世代の高校生へ勧めたいかとの設問14には，表24にみ

るとおり，中立的64.9%，肯定的15.1%，否定的20.0%となり，本講義が附属高生向けの内容であることが認知されている。

表19　設問1　期待度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A期待通り	4 (2)	10 (6)	7 (1)	4 (0)	3 (0)	28 (9)
Bある程度期待通り	7 (5)	11 (6)	12 (5)	14 (7)	11 (7)	55 (30)
Cどちらでもない	19 (8)	15 (4)	19 (10)	14 (7)	16 (6)	83 (35)
Dあまり期待通りではない	4 (1)	2 (1)	1 (1)	3 (3)	5 (4)	15 (10)
E期待はずれ	2 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	7 (3)

表20　設問2　内容への興味

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても興味を覚えた	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)
B興味を覚えた	2 (1)	11 (6)	6 (3)	5 (3)	5 (3)	29 (16)
Cどちらでもない	26 (14)	21 (9)	29 (13)	25 (12)	21 (12)	122 (60)
Dあまり興味を覚えなかった	5 (1)	5 (2)	3 (1)	3 (2)	7 (2)	23 (8)
E全く興味をおぼえなかった	2 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (0)	4 (1)	10 (8)

表21　設問6　難易度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても難しかった	1 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (6)
B難しかった	6 (5)	3 (1)	5 (2)	6 (3)	5 (2)	25 (13)
C適度だった	25 (12)	33 (16)	31 (16)	25 (13)	25 (14)	139 (71)
D易しかった	3 (0)	2 (0)	4 (0)	4 (1)	4 (1)	17 (2)
Eとても易しかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)

表22　設問8　満足度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても良かった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
B良かった	12 (6)	16 (10)	12 (5)	8 (5)	13 (7)	61 (33)
Cどちらでもない	19 (10)	20 (6)	26 (11)	24 (10)	19 (8)	108 (45)
Dあまり良くなかった	4 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	3 (2)	12 (7)
E全く良くなかった	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	6 (2)

表23　設問11　他の附属高生へ

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても勧めたい	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
B勧めたい	4 (3)	11 (5)	6 (5)	6 (3)	6 (3)	33 (19)
Cどちらでもない	25 (13)	23 (9)	32 (12)	24 (13)	25 (11)	129 (58)
D勧めたくない	3 (1)	2 (0)	0 (0)	4 (2)	4 (2)	13 (5)
E全く勧めたくない	3 (0)	3 (2)	1 (1)	3 (0)	3 (2)	13 (5)

表24　設問14　同世代の高校生へ

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても勧めたい	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
B勧めたい	5 (3)	6 (5)	4 (2)	7 (2)	6 (2)	28 (14)
Cどちらでもない	24 (11)	27 (9)	22 (15)	24 (13)	23 (10)	120 (58)
D勧めたくない	4 (3)	1 (0)	12 (0)	2 (2)	3 (3)	22 (8)
E全く勧めたくない	2 (0)	4 (2)	2 (1)	3 (0)	4 (2)	15 (5)

（2）第2講義「広島大学附属高等学校の歴史」に関する回答

第2講義は附属高の歴史に関する内容で，受講生に直接関係のあるものであり，今年度の中心講義にあたる。自身の所属する学校に関する内容のため，表27に示した設問23の講義の難易度を除き，表25の設問18期待度，表26の設問20内容への興味，表28の設問25満足度のいずれも肯定的意見が35%を超え，期待度に至っては61.0%が期待どおりだったとしている。生徒の興味関心と講義内容とが適合していたと言えよう。

講義内容の難易度については，表27にみるように，受講者の72.3%が「C　適度だった」と回答しており，23.9%が「易しい」を，3.7%が「難しい」を選択していることから，若干易しすぎた嫌いがある。

この講義をほかの附属高生徒に勧めたいかとする設問11については，表29にみるとおり，72.2%が中立的，20.3%が肯定的，7.5%が否定的となった。また，同世代の高校生へ勧めたいかとの設問31には，表30にみるとおり，中立的73.5%，肯定的7.0%，否定的19.5%と

表25　設問18　期待度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A期待通り	5 (1)	7 (3)	3 (2)	5 (1)	5 (4)	25 (11)
Bある程度期待通り	15 (6)	14 (8)	19 (9)	22 (11)	19 (10)	89 (44)
Cどちらでも	13 (9)	16 (6)	15 (5)	9 (5)	11 (4)	64 (29)
Dあまり期待通りではない	1 (1)	1 (0)	3 (2)	1 (1)	1 (0)	7 (4)
E期待はずれ	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)

表26　設問20　内容への興味

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても興味を覚えた	0 (0)	1 (1)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (1)
B興味を覚えた	10 (4)	17 (10)	9 (4)	11 (7)	14 (6)	61 (31)
Cどちらでも	20 (12)	17 (6)	24 (13)	22 (10)	18 (10)	101 (51)
Dあまり興味を覚えなかった	3 (1)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	2 (1)	12 (3)
E全く興味をおぼえなかった	3 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	7 (1)

なり，本講義が附属高生向けの内容であると受講者に認知されていることがわかる。

表27　設問23　難易度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても難しかった	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	4 (3)
B難しかった	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
C適度だった	29 (15)	32 (14)	33 (16)	18 (8)	24 (11)	136 (64)
D易しかった	4 (2)	3 (3)	6 (2)	14 (8)	9 (5)	36 (20)
Eとても易しかった	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (2)	3 (2)	9 (4)

表28　設問25　満足度

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても良かった	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
B良かった	14 (5)	17 (11)	10 (7)	11 (5)	13 (6)	65 (84)
Cどちらでもない	17 (11)	19 (5)	28 (10)	20 (11)	21 (10)	105 (47)
Dあまり良くなかった	4 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (1)	8 (3)
E全く良くなかった	2 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	0 (0)	7 (1)

表29　設問28　他の附属高生へ

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても勧めたい	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
B勧めたい	3 (2)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	4 (3)	34 (15)
Cどちらでも	25 (11)	26 (12)	35 (16)	29 (16)	21 (8)	135 (68)
D勧めたくない	3 (2)	5 (2)	1 (0)	2 (0)	7 (5)	5 (1)
E全く勧めたくない	4 (1)	4 (1)	2 (1)	3 (0)	5 (2)	9 (4)

表30　設問31　同世代の高校生へ

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても勧めたい	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
B勧めたい	3 (2)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	4 (3)	12 (9)
Cどちらでも	25 (11)	26 (12)	35 (16)	29 (16)	21 (8)	136 (63)
D勧めたくない	3 (2)	5 (2)	1 (0)	2 (0)	7 (5)	18 (9)
E全く勧めたくない	4 (1)	4 (1)	2 (1)	3 (0)	5 (2)	18 (5)

（3）講義全体に関する回答

最後に講義全体を通じての回答状況をみてみよう。設問35日本の大学に関する認識の変化については，表31にみるとおり，「どちらでもない」が57.0%，変わったとする回答が19.9%，変わらなかったとする回答が23.1%であった。

設問38の附属高に関する認識の変化については，表32にみるとおり，56.8%が「どちらでもない」と答え，29.5%が変わったと答え，13.7%が変わらなかったと答えた。

設問41の広島大学に関する認識の変化については，表33にみるとおり，74.0%が「どちらでもない」，15.5%が「変わった」，10.5%が「変わらなかった」と答えた。

これらの結果から，今回の講義が若干とはいえ，いずれも何らかの認識の変化を発生させており，特に附属に関する認識については顕著な変化を見せた。このことから附属高の生徒にとっての自校史教育が有用であることが類推できよう。

また，設問44志望校の変化についても表34にみるとおり，割合こそ低いものの，5名の生徒が志望校を変更している。それと関連して設問48広島大学への進学も若干の変化がみられた。50.5%が「どちらともいえない」と答える一方，「進学したい」は30.8%，「進学したくない」は18.7%となった。これは表15として示した事前調査の設問17の結果（中立43.4%，進学したい37.0%，進学したくない19.6%）と比べると，わずかに「進学したくない」層を減じ，「進学したい」層をも減らし，「どちらともいえない」層を増加させる結果となった。恐らく広島大学の歴史に関する具体的な知識を獲得したことを通じて，一方的な幻想や無知から来る先入観が削ぎ落とされた結果なのではないだろうか。

なお，表36にみるとおり，設問53授業の続きについては「受講したくない」が39.2%にまで達し，「受講したい」の18.8%を大きく2倍以上引き離したことから，今年の受講生には今回の調査があまり魅力的に感

表31　設問35　日本の大学に関する認識

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても変わった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
Bある程度変わった	8 (4)	8 (4)	3 (2)	6 (4)	12 (6)	37 (20)
Cどちらでもない	23 (11)	17 (9)	30 (13)	20 (11)	16 (5)	106 (49)
Dあまり変わらなかった	3 (2)	11 (3)	3 (1)	7 (3)	6 (5)	30 (14)
E全く変わらなかった	2 (0)	2 (1)	3 (2)	4 (0)	2 (2)	13 (5)

表32　設問38　附属高に関する認識

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても変わった	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)
Bある程度変わった	6 (3)	14 (8)	8 (6)	9 (4)	15 (9)	52 (30)
Cどちらでもない	26 (13)	18 (5)	26 (9)	19 (11)	15 (6)	104 (44)
Dあまり変わらなかった	3 (1)	5 (2)	4 (2)	8 (3)	4 (3)	8 (4)
E全く変わらなかった	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (5)

じられなかったものと推察できる。ちなみに前回は「受講したい」が19.1%，「受講したくない」が30.3%であった。

表33　設問41　広島大学に関する認識

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても変わった	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
Bある程度変わった	4 (2)	11 (4)	3 (2)	3 (2)	7 (2)	28 (12)
Cどちらでもない	26 (12)	24 (11)	32 (13)	28 (14)	24 (12)	134 (62)
Dあまり変わらなかった	1 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	2 (2)	8 (4)
E全く変わらなかった	1 (0)	1 (1)	3 (2)	4 (0)	2 (2)	11 (5)

表34　設問44　志望校の変化

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
A変化した	0 (0)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (1)	5 (3)
B変化しなかった	34 (16)	34 (15)	37 (16)	32 (16)	32 (15)	169 (78)

表35　設問48　広島大学への進学

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても進学したい	4 (3)	2 (1)	5 (2)	0 (0)	1 (0)	12 (6)
Bできれば進学したい	5 (3)	7 (4)	11 (5)	10 (5)	11 (7)	44 (24)
Cどちらとも	19 (8)	20 (10)	18 (8)	20 (10)	15 (5)	92 (41)
Dできれば進学したくない	5 (2)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	5 (3)	17 (6)
Eまったく進学したくない	1 (0)	6 (1)	2 (2)	6 (3)	2 (2)	17 (8)

表36　設問53　授業の続き

	1組	2組	3組	4組	5組	全体
Aとても受講したい	0 (0)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	1 (0)	5 (1)
B受講したい	5 (2)	5 (2)	6 (3)	8 (4)	5 (3)	29 (14)
Cどちらとも	20 (10)	17 (9)	16 (6)	12 (6)	11 (4)	76 (35)
Dあまり思わない	3 (2)	6 (3)	9 (5)	6 (3)	14 (8)	38 (21)
E全く思わない	6 (2)	9 (2)	3 (2)	12 (6)	3 (2)	33 (14)

5．第2講義「広島大学附属高等学校の歴史」に関する考察

（1）高校選択の意識

本研究目的は，高校生が自身の進学大学選択にどのようなファクターが働いているのかを検証するものであるが，前段階として現在通っている高校を選択した理由をアンケートによって調査した。

全体で一番多い理由「中高一貫」というのは，附属中学からの連絡入学制度に因るものと思われる。

附属は1学年200名，内附属中学校から男女60名ずつ計120名の連絡入学者があるため，他中学校からの入学者数は80名となる。また附属中学校からの入学者には隣接する附属小学校からの連絡入学者が数十名含まれる。

表37　質問：附属高校へ進学しようと思った理由は何ですか。(主なものを3つまで選択)

男子(104)		女子(87)		全体(191)	
中高一貫	40	中高一貫	44	中高一貫	84
校風	36	校風	39	校風	75
男女共学	19	男女共学	27	男女共学	46
通学の便	18	大学進学率	19	大学進学率	33
先生の勧め	16	歴史・伝統	13	歴史・伝統	26
親の勧め	14	世間の評判	10	通学の便	24
大学進学率	14	親の勧め	9	親の勧め	23
歴史・伝統	13	先生の勧め	7	先生の勧め	23

（　）回答人数

私事ながら稿者である西原自身も附属小学校から連絡入学によって中学・高校と進学した。我が身を振り返ってみても，小学校を選択するのはほとんどの場合，本人の意志ではなく親である。小学校に入学した時点である程度進路選択の幅が決まり，その流れに沿って高校まで進む生徒が過半数を占めるのである。

「中高一貫」が高校選択理由で最も多いのは「中高一貫で高校受験の負担が少ない」ではなく，「中高一貫という制度のため他の選択肢がほとんど無かった」と理解できる。

3番目に多い「男女共学」は，他の私立高校が男子校もしくは女子校であるためそれらとの比較であると思われる。

注目すべきは「校風」「歴史・伝統」が高校選択理由の上位に入っている点である。

附属高の校風は「自由・自主・自律」である。この校風は創立時から色濃く，100年経った今でも変わらない。これは長い「歴史」と「伝統」に育まれ守られてきたものであるが，昨今はこの「自由」のとらえ方が創設当時のそれとは違ってきている。本来，本校の「自由」は「やりたいことが何でもできる」「自分の考え判断し，自分の意志で行動できる自由が認められている」であったが，時代の流れの中で他の高校と比べて「規則による締め付けがない」「窮屈でない」という意味に取られているように感じる。

また「歴史・伝統」が進学理由の上位に来ているが，どれほど理解しているのか定かでない。「校風」である「自由」のとらえ方がもし前述した通りだとすれば，本校の「歴史・伝統」を真に理解しているとは言えない。

しかしよく考えてみれば，高校進学率が100%に近くなった現代で，高校を選ぶ際にその学校の「歴史」

「伝統」を重視することはあまりないように思われる。入学前にその高校の「歴史」を調べる中学生はそんなにいないのではないだろうか。

本校の生徒にしてもそれほど理解しているのではなく，単純に100年という長い歴史があり，何かしら伝統がある古い学校である問い程度のものであろう。

高校に入る前からその学校の「歴史」を深く理解する必要はないと思われるが，入学後その学校について知ることは決してマイナスではない。それどころか，歴史を知ることでそこに学ぶ自分という存在を改めて見つめ直す契機にもなろうし，スクールアイディンティティーの確立も期待できる。

自身が学んでいる学校の歴史を知ることが自己認識にどう影響するかをメタ認知させ，さらに次の進路となる大学選択にいい影響を及ぼすのではないだろうか。

（2）講義「広島大学附属高等学校の歴史」の実際

大学では半期の週1コマ，15回にわたって総合科目「広島大学の歴史」が開設され，受講生は学年を跨いで希望選択である。高校では目的に照らして第1学年を対象とした。大学と同等の時間数を確保しようとすると，通年で週1時間ずつ実施しなければならない。現実は科目として開設できないので，特別授業の形でせめて学期に1度の頻度で実施することが望ましいのであるが，それすら時間確保が困難である。やむを得ず昨年度同様第2学期（9月）にアンケート回答時間も含めて3時間連続（150分）の講義を1回のみの実施となった。

昨年は第1講座「日本の大学の歴史」，第2講座「広島大学の歴史」を開講したが，前節で述べた理由により「広島大学の歴史」は第1講座に含め，「広島大学附属高等学校の歴史」を第2講座として独立させた。

時間配分は，第1講座が80分，休憩を挟んで第2講座は40分，アンケート回答時間が20分。

第2講座「広島大学附属高等学校の歴史」の前半では第1講座の中で触れられた「広島高等師範学校」を受けて，その附属学校として設立した附属高の社会的意義（教育研究校，教育実習校）を解説，後半は100年の歴史を約15分にまとめたＶＴＲの視聴，最後に現在各界で活躍している著名な卒業生が，自身の高校時代を振り返って語った記事を紹介した。

主として附属高が開校以来掲げてきた「全人教育」とは何か，「自由」のとらえ方を，校歌の歌詞，教育課程，学校行事など具体的なものを挙げてできるだけわかりやすく説明したつもりであり，それなりに反応があると思われた。

しかし，附属高の社会的意義は生徒手帳や学校案内にも記載されていることであり，ＶＴＲは2年前に行われた本校創立百周年記念式典で上映されたもので，今回の受講生に中には当時中学2年生として視聴している者が5分の3はいることになる。どちらもそれほど強く意識していないであろうという見込みで実施したが，新鮮さに欠けたことは否めない。実際そういった感想を持つ者が少なからずいたことが，アンケートから見て取れた。

また広島大学についても附属高についても「今」の方が関心が高く，歴史に対してはさほど関心がないようであり，関心の低いものを150分も受講するのは生徒にとって時間が長く感じられたようである。

今後は講座の内容を見直すとともに，受講学年を中学1年生にすることも含めて再検討する必要がある。

（3）附属高生徒の「広島大学」に対する意識

事前アンケートには広島大学に対して以下のような印象が綴られている。

表38　設問20　広島大学のイメージ

オープン／威厳／けっこう良さそう／近い／医学部／頭がいい／田舎／実習生を見て明るいオープンなイメージ／教育学部／すてき／名門／医学部／附属の親元／楽しそう／自由／優秀／家から近い／家計の負担が少ない／医学部は偉そう／広い／国立でいい学校／教育学部のレベルが高い／以前に比べて良い評判を聞かない／楽しそう／交通の便が悪そう／きれい／田舎／教育学部が良い／小さい／人が多い／父が教授／広い／たくさん学部があって日本中探してもなかなかないいい総合大学／頭のいい人が集まる学校／けっこうのびのび／広い／交通不便／楽しい／医学部凄い／入るのが難しい／教育学部／しなやか／教育学部が凄い／東広島／教育実習生／田舎／きれい／頭が良い／研究熱心／国立／医学部／質素

同じアンケート結果によれば，今年度（2007年度）高校1年生は概ね大学進学を考えているが，具体的な進学先（地域）を想定している者は全体の4割，地域別で見ると関東・関西・中国がそれぞれ3分の1ずつで，特に関東では東京都，関西では京都，大阪，神戸が挙げられている。中国はほとんどが広島である。

つまり高校1年生の段階では，地域的には県外組は都市圏を目指し，県内であれば広島大学への進学を志望している。実際に受験実績をみても上記のような傾向が見られる。

広島大学への進学状況を見ると，学部に偏りがある。医学部，歯学部そして教育学部への進学者が多いのが特徴である。もちろん広島大学を志望していて合格しなかった者，他大学を志望していて広島大学に変更し

表39　合格者数上位主要大学（過去５年間の平均）

	大学名	人
1	同志社大学	47.6
2	早稲田大学	29.8
3	立命館大学	28.2
4	広島大学	26.2
5	慶応大学	13.6
6	京都大学	12.4
7	神戸大学	9.0
8	大阪大学	8.6
9	九州大学	8.4
10	東京大学	6.4
11	東京工業大学	2.4
12	一橋大学	0.8

※2003年～2007年に合格した現役生・過年度生を合わせた人数の平均。

た者も含まれるため，進学結果だけではどの段階でそういう理由で受験したかは判別できない。

自校史の講義を受講した生徒がどういった形で進学先を決めていくか追跡し，本講義の影響を分析したい。

表40　広島大学進学者数

学部/年度	05	06	07	累計
医(医)	6	7	3	17
医(総薬)	3	1	1	5
医(保健)	2	2	0	4
歯(歯)	1	3	1	5
歯(口腔)	3	0	0	3
理	2	3	2	7
工	1	2	1	4
生物生産	0	4	0	4
法	3	2	0	5
経	1	0	1	2
文	2	5	0	7
教育	5	9	4	18
総合科	2	0	0	2
合計	31	38	13	82
在籍者数	200	195	197	592
進学者数	198	180	105	483

※2007年４月現在，各前年度末に附属高等学校を卒業した生徒のうちで進学した人数

５．小　括

本稿においては附属高生たちにとっての本来の自校史授業「広島大学附属高等学校の歴史」に関する話題を中心に扱った。来年度はこれまでの反省を生かし，講義時間を短縮した上で調査を実施し，より有効な自校史教育についての試行を継続する予定である。

資料１　事前調査票

前回実施した事前調査票に対し，今回は次に示すとおり，「Ⅰ．あなたについてお答え下さい」として附属高等学校への進学に関わる３つの設問を冒頭に追加した。前回の設問は「Ⅱ．あなたが大学進学について考えていることについてお答え下さい」としてまとめ，それぞれ設問番号をずらし，全２１問とした。

Ⅰ．あなたについてお答え下さい。

【すべての方にお尋ねします】

１．あなたは附属中学校出身ですか。

Ａ．はい（ＹＥＳ）　　Ｂ．いいえ（ＮＯ）

【設問１で「Ａ．はい（YES)」と答えた方にお尋ねします】

２．附属中学へ進学しようと思った理由は何ですか。（主なものを３つまで選んで下さい）

Ａ．中高一貫だから／Ｂ．男女共学だから／Ｃ．兄姉が通っている（いた）から／Ｄ．親や身内に勧められて／Ｅ．歴史・伝統があるから／Ｆ．大学進学率が高いから／Ｇ．校風に惹かれて／Ｈ．小学校や塾の先生に勧められて／Ｉ．親，親戚の出身校だから／Ｊ．他に行くところがなかったから／Ｋ．通学の便が良いから／Ｌ．同窓会が充実しているから／Ｍ．授業の質が高い／Ｎ．世間の評価／Ｏ．その他

【すべての方にお尋ねします】

３．附属高校へ進学しようと思った理由は何ですか。（主なものを３つまで選んで下さい）

Ａ．中高一貫だから／Ｂ．男女共学だから／Ｃ．兄姉が通っている（いた）から／Ｄ．親や身内に勧められて／Ｅ．歴史・伝統があるから／Ｆ．大学進学率が高いから／Ｇ．校風に惹かれて／Ｈ．小学校や塾の先生に勧められて／Ｉ．親，親戚の出身校だから／Ｊ．他に行くところがなかったから／Ｋ．通学の便が良いから／Ｌ．同窓会が充実しているから／Ｍ．授業の質が高い／Ｎ．世間の評価／Ｏ．その他（　）

Ⅱ．あなたが大学進学について考えていることについてお答え下さい。

（以下，設問番号を除き前回と同様）

資料２　事後調査票

前回調査票からの変更点は次のとおり。

１．第２講の表題を「広島大学の歴史」から「広島大学附属高等学校の歴史」へ変更。

２．設問38から40に以下の附属高等学校に関する認識についての設問を挿入。

38．受講したことで附属高等学校に関する認識は変わりましたか。次の選択肢の中からもっともふさわしいと思うものの記号をひとつだけ

右側の回答欄にお書き下さい。

A　とても変わった／B　ある程度変わった／C　どちらでもない／D　あまり変わらなかった／E　全く変わらなかった

【設問38でAまたはBと回答した方にお尋ねします】

39. 認識が変わった理由についてお書きください。

【設問35でDまたはEと回答した方にお尋ねします】

40. 認識が変わらなかった理由についてお書きください。

3．上記2にともない設問38以降の番号を41番以降へ移動し，全53問へと変更。